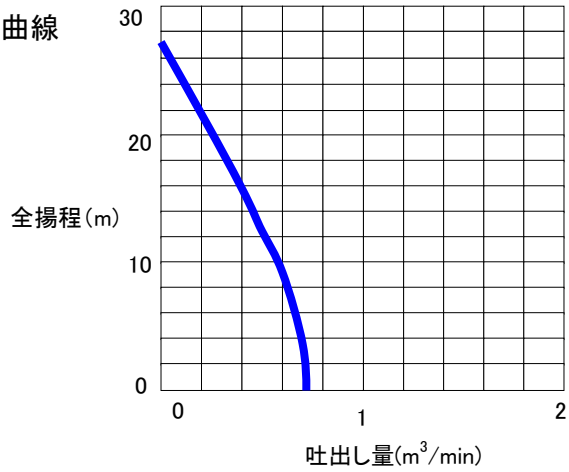
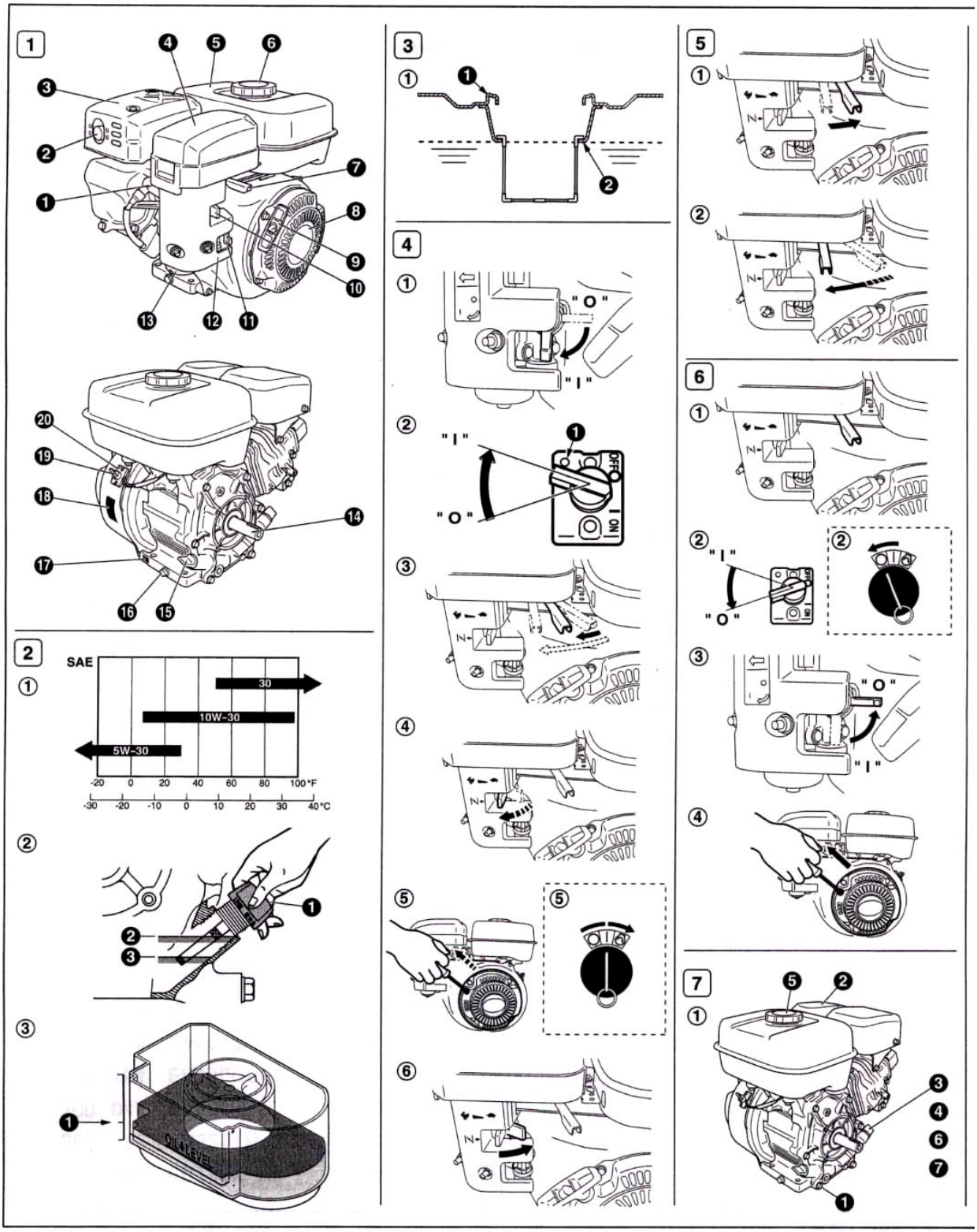
EA345K－2
（エンジンポンプ）

○ 電源不要のエンジンタイプ
○ 土木建築工事の泥水・ヘドロ・固形物の排水用

口径	50mm
ポンプ仕様	
最大全揚程	27m
最大吐出し量	0.7m^3/min
異物通過径	20mm
エンジン仕様	
空冷4ｻｲｸﾙOHCｶﾞｿﾘﾝｴﾝｼﾞﾝ・ﾘｺｲﾙｽﾀｰﾀ	
連続定格出力	2.9kw/3600min^{-1}
最大出力	4.2kw/4000min^{-1}
総排気量	169cm^3
使用燃料	自動車用無鉛ガソリン
タンク容量	3.6L
重量	34.5kg
サイズ	570X346X397mm
付属品	2"ｶｯﾌﾟﾘﾝｸﾞ X2、 2"ｶｯﾌﾟﾘﾝｸﾞﾊﾝﾄﾞﾙ X2
	2"ｶｯﾌﾟﾘﾝｸﾞﾊﾟｯｷﾝ X2、 2"ﾎｰｽﾊﾞﾝﾄﾞ X2
	2"ｽﾄﾚｰﾅｰ

■ 性能曲線




1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
SAE
30
10W-30
5W-30
-20 0 20 40 60 80 100 °F
-30 -20 -10 0 10 20 30 40 °C
OIL LEVEL
"O"
"I"
OFF
ON
N

各部の名称

(図-1参照)

注 文章中の図 1 から 8 については、表紙(裏表紙)の内側の図をご参照ください。

❶ 点火プラグ
❷ マフラ排気口
❸ マフラカバー
❹ エアクリーナ
❺ 燃料タンク
❻ 燃料タンクキャップ(燃料給油口)
❼ スピードコントロールレバー
❽ リコイルスタータ
❾ スタータノブ
❿ チョークレバー
⓫ 燃料コック
⓬ 燃料カップ
⓭ キャブレター
⓮ 出力軸
⓯ オイルゲージ(オイル注入口)
⓰ オイルドレンプラグ
⓱ エンジン号機(打刻位置)
⓲ エンジンネームラベル
⓳ ストップスイッチ
⓴ オイルセンサーユニット

3. 運転を始める前に

エンジンオイルが入っておりませんのでご使用になる前に必ず注入してください。

1. エンジンオイルを入れる。(図-2 参照)

- オイルはエンジンを水平に置き、注入口からオイルゲージをねじ込まないで計り、上の刻み線まで入れてください。
  EX13/17/21型: 約0.6 L
  EX27 型: 約 1.0 L
- オイルは外気温度に応じて、図-2-①表粘度の口ビン純正オイル又は自動車用エンジンオイルを使用してください。
- エンジンオイルの質及び量の低下は焼付きのトラブルをまねきます。オイルの品質はAPI分類SE級以上の良質のものをご使用ください。
- 外気温度が-20℃以下及び40℃以上の場合は現地に適合した粘度・品質のものをご使用ください。

図-2-② の説明
❶ オイルゲージ ❷ 最高油面
❸ 最低油面 (要補給)

- オイルバスエアクリーナ付き仕様はエンジンオイルをオイルパンのオイルレベル❶まで入れてください。(図-2-③)

❶ オイルレベル

EX13/17/21型 : 約 55 mL

2. 燃料タンクに燃料を入れる。(図-3 参照)

⚠ 危険 火気厳禁

- エンジンが停止し、充分冷却されている事を確認してください。
- 燃料は自動車用無鉛ガソリンを使用してください。
  タンク容量は
  EX13 型 : 約 2.7 L / EX17 型 : 約 3.6 L
  EX21 型 : 約 3.6 L / EX27 型 : 約 6.1 L
- 燃料補給は燃料コックを閉じておこないます。
- 燃料は給油口の口元❶まで入れず、所定の給油限界位置以内で補給してください(❷の位置)
  入れすぎると燃料が燃料タンクキャップからにじみ出ることがあり危険です。
- 燃料給油時には、給油口に装着してある燃料コシ網を必ず使用してください。
- 燃料がこぼれたら、きれいにふき取ってから始動してください。

4. セルモータ付エンジンをお持ちの方へ

準備していただくもの

セルモータ付エンジンを使用の場合、以下のものをエンジン本体とは別に準備してください。

1. バッテリ

(1) バッテリは 12V-24AH 以上のものを使用してください

運転のコツと停止のしかた

(図-4 参照)

1. 始 動

(1) 燃料コックを開きます。(図-4-①)
(2) ストップスイッチを運転 "I"(ON)側にまわします。(図-4-②)
(3) スピードコントロールレバーを低速(L)から高速(H)の方向に約 1/3 開いた位置にします。(図-4-③)
(4) チョークレバーを閉じます。(図-4-④)

チョークの開度は
- 寒い時やエンジンが冷えている時は全閉にします。
- 暖かい時や運転停止直後再始動する場合は全開もしくは半開にしてください。

(5) 始動ノブをゆっくり引いてゆくと重くなる所(圧縮点)があります。更に少し引くと一度軽くなる所があり、そこから始動ノブを一旦元に戻し、勢いよく引張ります。ロープは一杯に引ききらないでください。引いた始動ノブは、その位置から手離さずに静かに元に戻してください。(図-④-⑤)

セルモータ式の場合 (図-④-⑤)

前記1、3、4の手順を踏んでから

○	停止	I	運転	⊖	始動

キーをキースイッチに差し込み運転(I)の位置にします。

更に右へ廻す(始動"⊖"位置)とエンジンが始動します。

- 始動しない場合は、5秒以上連続してセルモータを廻さないでください。
  キーを運転位置に戻し、10秒位休んでから再始動するようにします。
- エンジン運転中は、キースイッチを始動位置に絶対に廻さないでください。

注意：セルモータでなくリコイルスタータで始動する場合にも、キーを運転位置にしてください。

(6) エンジンが始動したらチョークレバーを開きます。

- チョークレバーはエンジンの調子をみながら徐々に開き、最後には必ず**全開**にしてください。
- 寒い時またはエンジンの冷えている時、急にチョークレバーを開くと、エンジンが停止する事があります。ご注意ください。(図-④-⑥)

2. 運　転

(1) エンジン始動後、負荷をかけずに1～2分位、低速(L)側で運転(暖気)します。(図-⑤-①)

(2) スピードコントロールレバーを徐々に高速(H)側に操作し、所要回転数にセットします。(図-⑤-②)

- 作業を中断する時はその都度スピードコントロールレバーを低速(L)側に戻してください。燃料の節約のみならず、エンジンの寿命にも好影響を与えます。

3. 停　止

(1) スピードコントロールレバーを低速(L)にし、1～2分位運転します。(図-⑥-①)

(2) ストップスイッチ（または、キースイッチ）を停止"O"(OFF)側にまわしてください。(図-⑥-②)

(3) 燃料コックを閉じます。(図-⑥-③)

(4) リコイルスタータの始動ノブをゆっくり引き、重くなった所で始動ノブを戻してください。エンジン内部への外気(湿気)の浸込が防止できます。(図-⑥-④)

※燃料コックで停止させる方法

長時間使用しない時は、燃料コックを閉にして気化器内の燃料を使い切り、エンジンが自然に停止するのを待ちます。この方法は気化器内に残った燃料が変質し気化器内のつまり等を防止する為です。

6. 点検について　(図-⑦参照)

1. 日常点検

ご使用になる前、必ず次の点検を行ってください。

❶ 各部ボルトゆるみ、破損
❷ エアクリーナエレメントの汚れ清掃
❸ エンジンオイルの量と汚れ
❹ 燃料、オイル等の漏れ
❺ 燃料残量
❻ 周囲の安全
❼ 異常振動・異常音

2. 定期点検

エンジンを常に良好な状態で使うため、次の点検表に従って保守点検を必ず実行してください。

また、下表は一例であり、エンジンの使用環境や負荷の状態により、オイルの劣化、エアクリーナエレメントの目詰まり及び各部品の磨耗等に差が生じ、保守する間隔は短くなることがあります。

運転時間	8時間（毎日）	50時間（毎週）	200時間（毎月）	300時間	500時間	1000時間
各部の清掃及び締付点検	○（毎日）					
エンジンオイルの点検・補給	○（毎日規定最大まで補給する）					
エンジンオイルの交換	(初回20時間目)	○（100時間毎）				
点火プラグの清掃		○（100時間毎）				
エアクリーナの清掃		○				
エアクリーナエレメント交換			○			
燃料カップの清掃			○			
点火プラグ隙間清掃と調整			○			
吸排気弁隙間点検・調整				◎		
シリンダヘッドのカーボン除去					◎	
気化器清掃					◎	
吸排気弁点検すり合わせ					◎	
オーバーホール						◎

◎印の点検項目は、販売店または整備工場にご用命ください。